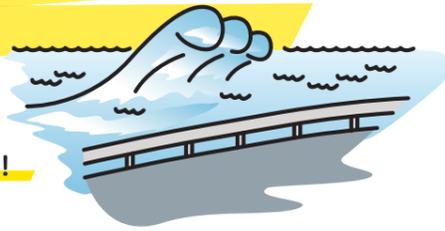


# 津波に備えて



津波から命を守るためには、

「強い揺れ、弱くてもゆっくりとした長い揺れを感じたら」…すぐに避難!!

「揺れがなくても津波警報を見聞きしたら」…すぐに避難!!

## 津波警報・注意報

### 津波による災害の発生が予想される場合には…

地震発生後  
約3分で

- 大津波警報
  - 津波警報
  - 津波注意報
- を気象庁が発表します。

その後

- 予想される津波の高さ
  - 津波の到達予想時刻
- 等の情報を気象庁が発表します。

## 津波に関する情報

### 津波警報の発表後

沖合や沿岸の観測点で観測した津波の高さや到達時刻を気象庁が発表します。

- 高い津波が来る前は、津波の高さを「観測中」として発表します。
- 沖合で観測された津波の情報をいち早く伝えます。



「津波の高さ」は津波がない場合の海面からの高さです。津波が陸上で崖などを駆け上った高さは、海上の津波の高さの何倍にも達することがあります。

## 津波警報・注意報の分類と、とるべき行動

※気象庁ホームページを参照  
<https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/joho/tsunamiinfo.html>

	発表される津波の高さ		とるべき行動	想定される被害
	数値での発表 (津波の高さの予想区分)	津波の規模の 表現		
大津波警報	10m超 (10m<予想高さ)	巨大	ハザードマップの津波浸水想定区域内の住民や沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。津波は繰り返し襲ってくるので、津波警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください。	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれる。
	10m (5m<予想高さ≤10m)			
	5m (3m<予想高さ≤5m)			
津波警報	3m (1m<予想高さ≤3m)	高い	ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難してください!	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生する。人は津波による流れに巻き込まれる。
津波注意報	1m (20cm≤予想高さ≤1m)	(表記しない)	海の中にいる人は、ただちに海から上がって、海岸から離れてください。津波注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近付いたりしないでください。	海の中では人は速い流れに巻き込まれる。養殖いかだが流失し小型船舶が転覆する。

※津波警報等の発表時には、各区分の高い方の値を、予想される津波の高さとして発表します。



「巨大」という言葉を見たり聞いたりしたら、東日本大震災クラスの津波が来ると思って、ただちにより高い場所に避難しましょう!

## 津波想定と対策についての考え方

平成23年(2011年)3月11日に発生した東日本大震災による甚大な津波被害を受け、国は新たな津波対策の考え方を示しました。この中で、今後の津波対策を構築するにあたって、基本的に次の2つのレベルの津波を想定する必要があるとしています。茨城県では、この考え方に基づき、津波浸水区域を想定しています。詳しくは茨城県ホームページに掲載してあります。

※このハザードマップでは、最大クラスを想定した津波発生時の浸水区域を示しています。

### L1津波

発生頻度は相対的に高く、津波高は低いものの、大きな被害をもたらす津波



防波堤など構造物によって津波の内陸への侵入を防ぐ海岸保全施設等の建設を行う上で想定する津波

### L2津波

発生頻度は極めて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす津波



住民避難を柱とした総合的防災対策を構築する上で想定する津波

## 津波避難時の心得

海底で地震が起きると、海底の地形が急に変わり、海水が大きく押し上げられたり沈み込んだりするため、津波が起きることがあります。この波の高さは水深が浅くなるにつれて増し、湾内に入るとさらに高くなります。ときには数十mにもなり、大きな被害をもたらすこともありますので早めの避難が不可欠です。なお、津波は日本近海の地震のみでなく、遠方の海域で発生した地震や火山島の噴火によっても引き起こされます。

ラジオ、テレビ、防災行政無線、広報車などから新しい情報を!



津波注意報でも、海水浴や磯釣りは危険! ただちに避難



津波はくりかえしやってくる。警報、注意報が解除されるまで気をゆるめない!



地震を感じなくても、津波注意報・警報が出されたらただちに高台に避難! 船は湾外へ退避!

強い地震、また弱い地震でも長い時間ゆっくりとした揺れの場合は、ただちに安全な場所へ避難! 船は湾外へ退避!



湾外退避できない小型船は高いところに引き上げて固縛を! ただし時間に余裕があるときに!



## 周囲の状況に応じてあわてずに身の安全を確保し、避難行動をとりましょう。

すみやかに高台に避難し、津波情報をよく確認しましょう。



※津波は2度、3度とやってきます。また、1度目より大きな津波が来ることもありますので波が引いたからといって海岸付近に戻ってはいけません。

近くに高台がないときは堅牢な高い建物に避難しましょう。



自動車の利用はやめて徒歩や自転車などで移動しましょう。